

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 豊後大野市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策	備考	
								計画掲載ページ	
記入要領 ◎項目名を記入してください。 (例) ・認知症施策 ・地域ケア会議等 ※内容に応じて自由に設定してください。	◎目標を設定するに至った現状と課題(「取組と目標」を設定した背景)を記入してください。	◎第8期における具体的な取組 ・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。	◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。	◎令和4年度の取組状況と、「目標」に対する令和4年度の実績を記入してください。	◎目標に対する実績、及び「理想像」に近いのかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかったから選択	◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。 ・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。	◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。	◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。	
	1 一般介護予防事業の展開	今後高齢化が進み、特に後期高齢者比率が進展していく中においても、高齢者が住み慣れた環境の中でできる限り長く自立した生活を営んでいくために、自立支援・重度化防止等に資する施策を展開する必要があります。	すべての高齢者を対象に、右記に記載する事業を展開しています。事業については、今後も継続してまいります。市民への周知が不足している事業、募集しても参加者が少ない事業等もあるため、周知方法の見直しも図りながら運営上の改善を図っていきます。	元気が出る体操教室の開催数 令和3年 8カ所 令和4年 8カ所 令和5年 8カ所 介護予防健診事業の参加者数 令和3年 450人 令和4年 500人 令和5年 500人 いきいき生活応援隊員養成講座の修了者数 令和3年 20人 令和4年 20人 令和5年 20人 元気クラブサポーター養成講座の修了者数 令和3年 10人 令和4年 10人 令和5年 10人 生活援助サポーター養成講座の修了者数 令和3年 15人 令和4年 15人 令和5年 15人	元気が出る体操教室の開催数 令和4年 44カ所 介護予防健診事業の参加者数 令和4年 211人 いきいき生活応援隊員養成講座の終了 令和4年 1人 元気クラブ養成講座の終了 令和4年 3名 生活援助サポーター養成講座の終了者数 令和4年 2名	△	全体的にコロナ禍もあり、目標に到達できなかったため左記の評価とした。また、各項目の分析は以下のとおり。 高齢者の健康寿命に対する関心は高まっているように感じたが、コロナ禍により令和4年度も人が集まる事が制限され、「元気の出る体操教室」の普及にはつながらなかった。 介護予防健診は、広報がうまく行かず対象者に情報や必要性が上手く伝わっていなかった事や、開催時に人が多く集まることを懸念して参加を控えた高齢者が多かった。 各養成講座は、講座の内容に興味を示すが、担い手としての意識が薄く、受講につながらなかった。	ケーブルテレビ、市報、ホームページを活用して広報を強化することで、高齢者へ再度周知していく。 これまでと同じように、感染症対策を維持し、安全性を高め、高齢者が安心して参加しやすい雰囲気を作ると共に、地域で生活して行くための環境や担い手づくりを行う。	P44、45
	2	急激な高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の割合は増加傾向にあります。このような中、令和元年6月18日に認知症施策推進大綱が閣議決定されました。この大綱では、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進することが明記されました。	本市においても、認知症施策推進大綱に基づき、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」を基本目標として、次のとおり大綱にある5つの柱の内、(5)研究開発・産業促進・国際展開を除く、4つの認知症施策の柱に基づき推進します。 (1)普及啓発・本人発信支援 (2)予防 (3)医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 (4)認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	(1)普及啓発・本人発信支援 ①認知症サポーター養成講座の実施 認知症サポーター数 令和3年 7,700人 令和4年 8,050人 令和5年 8,400人 ②認知症サポーターキャラバン・メイトとの連携 活動可能なメイト数 令和3年 59人 令和4年 62人 令和5年 63人 ③市民に対する普及啓発活動 市民講座の参加者数 令和3年 100人 令和4年 100人 令和5年 100人 ④本人ミーティングの実施 本人ミーティングの開催回数 令和3年 4回 令和4年 6回 令和5年 8回	(1)普及啓発・本人発信支援 ①認知症サポーター養成講座の実施 認知症サポーター数 令和4年 7,900人 ②認知症サポーターキャラバン・メイトとの連携 活動可能なメイト数 令和4年 58人 ③市民に対する普及啓発活動 市民講座の参加者数 令和4年 145人 ④本人ミーティングの実施 本人ミーティングの開催回数 令和4年 2回	○	・新型コロナウイルスの影響によりサポーター養成講座の依頼数が減少したことや、キャラバン・メイト養成講座(県主催)の受講者数に制限がかかり3名の養成にとどまった。 ・市民講演会については3年振りに開催することができ、目標を上回る参加者がいた。アンケートで認知症との共生についての意識を持ってた回答した者が87.5%にのぼり、共生意識の定着に一定の成果があったと考える。 ・本人ミーティングについては、オンライン等に参加依頼をしたもの参加者の確保に苦慮し、開催が遅くなったため目標回数に届かなかった。	新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に緩和されるためサポーター養成講座の依頼の増加が想定される。また、サポーター養成講座等の実施依頼を市内各事業所へ文書にて郵送し、開催を後押しする。 本人ミーティングについては、若年性認知症の方を中心に参加者が固まりつつあるので目標回数を達成できるよう努めたい。	P46,47,48
	3	認知症高齢者施策の充実	(1)普及啓発・本人発信支援 (2)予防 (3)医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 (4)認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	(2)予防 ①認知症カフェ等の通いの場の拡充 認知症カフェの設置箇所 令和3年 6カ所 令和4年 7カ所 令和5年 8カ所	(2)予防 ①認知症カフェ等の通いの場の拡充 認知症カフェの設置箇所 令和4年 6カ所	△	三重町以外の認知症家族会については現在進行形で認知症家族を介護している方が少ないため認知症カフェと兼ねられることを説明した。これを受けて、家族会で協議し、方針を決定することになる。	千歳町家族会が認知症カフェに転換する予定。大野町も検討中のため、引き続き、認知症カフェに転換するか参加者と協議したい。	P48,49
4		(3)医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 ①認知症初期集中支援チーム員の活動推進 支援した事例数(件)と医療・介護につながった者の割合 令和3年 12件:90% 令和4年 12件:90% 令和5年 12件:90%	(3)医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 ①認知症初期集中支援チーム員の活動推進 支援した事例数(件)と医療・介護につながった者の割合 令和4年 14件:84.6%	○	支援を終了した8件のうち1件が医療・介護につながった。つながらない理由としては、本人・家族の拒否が1件であった。	チーム員で扱う事例は中等度の方が多いため、より早期の段階で対応できるよう普及啓発に努めたり、包括内で総合相談として扱うのではなくチーム員案件に振り分ける件数の増加を目指したい。	P50		

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名: 豊後大野市

項目	現状と課題	取組	目標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策	備考	
記入要領	<p>◆自立支援、介護予防又は重度化防止</p> <p>◎項目名を記入してください。 〈例〉 ・認知症施策 ・地域ケア会議等 ※内容に応じて自由に設定してください。</p>	<p>◎第8期における具体的な取組</p> <p>・「現状と課題」に記入した課題等を解決するため、第8期計画に記載した取組を記入してください。</p>	<p>◎「取組」に対し、計画に記載した目標を記入してください。</p>	<p>◎令和4年度の実績を記入してください。</p>	<p>◎目標に対する実績、及び「理想像」に近づいているかどうかという観点から自己評価を行い、その結果をプルダウンで選択してください。 「◎」達成できた 「○」概ね達成できた 「△」達成はやや不十分 「×」全く達成できなかったから選択</p>	<p>◎左記自己評価について、どのような理由からそのような評価を行ったのか、記入してください。</p> <p>・目標の達成状況に関する調査及び分析内容(達成できた背景、達成できなかった要因・課題等)について記入すること。</p>	<p>◎左記自己評価を受けて、今後の対応策等を記入してください。</p>	<p>◎「取組と目標」が記載されているページを記入してください。</p>	
5			<p>(4)認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 認知症の人を支える活動の場づくり(チームオレンジ) 令和3年 30人 令和4年 40人 令和5年 50人</p>	<p>(4)認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 認知症の人を支える活動の場づくり(チームオレンジ) 令和4年 49人がステップアップ講座を受講。</p>	◎	<p>ステップアップ講座を5回・延べ100人が受講し、3月にはチームオレンジによる個人支援を開始した。</p>	<p>ステップアップ講座の内容については、個人支援を実施したなかで見えてきた課題を解決できるよう、チームオレンジのチーム員と協議しながら決定する。</p>	P51,52	
6	生活支援体制の整備、推進	<p>高齢になっても、住み慣れた地域でいきいきと生活していくためには、医療や介護といった制度によるものだけでなく、ゴミ出しや食事の準備、買い物支援、移動手段の確保といった日常生活支援を必要とすることが少なくありません。日常生活支援は「生活支援サービス」と言われています。 これまで実施してきた一般高齢者福祉施策としての生活支援サービス事業の継続として体制整備に取り組んでいきます。</p>	<p>現在、本市における協議体は、第2層協議体を地区社会福祉協議会を核としてネットワークを広げていく方向で位置づけを行い、第1層協議体は、地区社会福祉協議会の代表者と市全域や地域で活動している各種団体の代表者が参画し、平成30年度に設置を完了しています。小学校区域である第3層協議体、自治会区域に相当する第4層については、新たに設置せず、既存の団体を協議体に位置付けます。</p>	<p>第1層協議体の開催回数 令和3年 2回 令和4年 3回 令和5年 3回 重点施策について第2層協議体が主催するフォーラム等開催数 令和3年 7回 令和4年 7回 令和5年 7回 第3層での支え合いの推進活動(延べ件数) 令和3年 7カ所 令和4年 10カ所 令和5年 14カ所 第4層での支え合いの普及啓発の達成率(%) 令和3年 20% 令和4年 50% 令和5年 80% 地域の支え合い活動の立上げ件数(延べ件数) 令和3年 1件 令和4年 3件 令和5年 6件</p>	<p>令和4年度はSCが地域で活動するために地域資源調査等を実施したが、コロナ禍で住民が集まって協議することができず、目標値に到達することが困難であった。 第1層協議体開催回数 未実施 フォーラム等開催回数 7回 第3層での支え合いの推進活動 7カ所(既存4カ所・新設3カ所) 第層での支え合いの普及啓発の達成率23.3%(52地区/223地区) 地域の支え合いの活動の立上げ件数41件</p>	△	<p>コロナ禍で、地域住民が集まらない状況が続いた。その中で、SCの支援体制の整備や地域に入るための仕組みを進めることはできたが、目標に対する実績が不十分のために左記の評価とした。</p>	<p>第2層協議体での協議を活性化し、協議の結果を第1層協議体で共有していく。 また、県のスーパーバイザー派遣事業を活用し、第4層で身近な地域の支え合いについて考え、新たな資源を作るための手法を学び、SCで共有し市内全域に広げていく。 別途、第3層について、清川での取組をモデルにして情報共有を行い、他の地域にも広げていく。</p>	P58,59,60
7	地域ケア会議の推進	<p>本市では平成24年度に、市、地域包括支援センター、介護支援専門員、介護保険サービス事業所、各種助言者を構成員として、地域ケア会議の運営をスタートしました。今後は自立支援を促進するため、総合事業の短期集中予防を地域ケア会議で取り扱うことについて、調査・検証を行います。</p>	<p>個別事例会議の開催回数 令和3年 34回 令和4年 34回 令和5年 34回 個別事例の検討回数 令和3年 102件 令和4年 102件 令和5年 102件 内評価事例の検討件数 令和3年 34件 令和4年 34件 令和5年 34件 介護保険サービス事業所の参加率 令和3年 50% 令和4年 50% 令和5年 50% 地域課題解決のための会議の開催 令和3年 12回 令和4年 12回 令和5年 12回</p>	<p>個別事例会議の開催回数 令和4年 35回 個別事例の検討回数 令和4年 188件 内評価事例の検討件数 令和4年 89件 介護保険サービス事業所の参加率 令和4年 76.5% 地域課題解決のための会議の開催 令和4年 12回</p>	○	<p>令和3年度より、短期集中サービスCを検討する「短期集中C型ケア会議」を実施しており、このことで、目標を概ね達成することができた。 なお、通常の地域ケア会議の介護サービス事業所参加率は低迷していたため、各事業所へケア会議への出席依頼の文書を発送したり、包括からも出席を促したことで前年度より10%高い43.8%となった。 更に、地域ケア会議運営検討会等での協議を重ねた結果、生活支援コーディネーターのケア会議参加に道筋を作ることができた。 一方、地域課題の検討については全く進捗がなかった。</p>	<p>引き続きケア会議、C型ケア会議を実施していく。 また、生活支援コーディネーターのケア会議参加に伴い、地域課題を1事例でも解決できるようケア会議運営検討会を進めていく。</p>	P63,64,65	

